

私立大学研究ブランディング事業

29年度の進捗状況

学校法人番号	231030	学校法人名	足立学園		
大学名	愛知文教女子短期大学				
事業名	「食物アレルギーの子どもを守る大学」へー保育所における職種間連携を含む食物アレルギー教育推進事業ー				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	510人
参画組織	生活文化学科食物栄養専攻、幼児教育学科第1部および第3部、ブランディング事業委員会、SD委員会、FD・学術研究委員会、広報委員会、研究ブランディングプロジェクトチーム				
事業概要	本学は保育士と栄養士の養成施設である。本事業では保育所での食物アレルギー事故防止の視点から、保育士と給食担当者(栄養士等)への職種間連携を含む「食物アレルギー教育」内容と教授法を研究により明らかにする。これは校祖足立閻魔の「真心を通わせることで「信用」「信頼」が生まれる」という信念を象徴していることから、「食物アレルギーの子どもを守る人を育成する」という本学のブランド確立に向け全学的に推進する。				
①事業目的	<p>【社会的ニーズ】アレルギー疾患を有する子どもの増加に伴い、保育所での対応が求められているが、食物アレルギーに関しては「誤配・誤食」事故が起きているのが実情である。理由として保育室と給食室間のコミュニケーション不足が考えられ、ガイドラインの徹底とともに「事故防止」のためには、保育士と給食担当者の食物アレルギーへの正しい理解と連携が不可欠である。</p> <p>【研究ニーズ】食物アレルギー教育が保育士および栄養士養成施設においてどの程度実施されているかは明らかになっておらず、「専門職連携」に関しても保育分野で求められる協働の在り方や方法、教育方法などは研究されていない。</p> <p>【自大学と研究テーマの関連性】本学は同キャンパス内で保育士と栄養士の専門職人材を養成し、社会に輩出しているが、ここに教育・研究のフィールドがある。食物アレルギー教育に関しては平成15年より学内で開催している、食物アレルギー対応クリスマスパーティ「みんないっしょのクリスマス」が基盤となっており、幼児教育学科においても平成26年から「乳幼児食物アレルギー演習」を導入、学生の教育成果に関する研究を学会等で報告している。本事業の推進により、「食物アレルギー教育」を発展させ、保育士および栄養士養成施設における教育の充実と発展に寄与し、保育所における食物アレルギー事故減少に貢献できる。</p> <p>保育士と給食担当者の有機的な職種間連携を含む「食物アレルギー教育」の内容と教授法を開発することで、これをリカレント教育や一般市民への生涯学習としても展開する。本学独自のこの事業を通して「食物アレルギーの子どもを守る」人材を育成する大学として「食物アレルギー教育」の拠点となることを目指すものである。</p>				
②29年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】ブランディング事業委員会は、食物アレルギー教育の拠点の基盤づくりとして、トレーニングルームとeラーニング環境を整備する。研究部門統括会議は、職種間連携を含む「食物アレルギー教育」の内容検討と教育内容、教授法開発、他大学視察による積極的な情報収集を行う。ブランディングチームは、他大学から積極的に情報を収集する。</p> <p>【実施計画】・「食物アレルギー教育研究トレーニングルーム」の設置 ・事業専用インターネットサイトおよび学内ネットワーク環境整備 ・幼児教育学科、生活文化学科協働型「みんないっしょのクリスマス2017」開催 ・文教こどもフェスタでの報告会 ・保育所実態調査結果を踏まえたリカレント教育の構築、連携コンピテンシー開発、食物アレルギー学習到達テストの完成 ・指定保育士・栄養士養成施設教育実態調査の実施 ・食物アレルギー教育内容見直し、教授法開発、ルーブリック評価開発 ・到達度テストの実施 ・「トレーニングルーム」の授業活用および動画収録の開始</p>				

③29年度の事業成果

【研究・教育】本学が行った食物アレルギー教育の効果と現在の職場での職種間連携に関するアンケート調査を卒業生対象に実施(5月)し、データ分析、結果の一部を「食物アレルギー研究会」にて報告(2月18日)した。また、愛知県全域および三重県、岐阜県内の一部保育所に向けた食物アレルギー実態調査を実施(8月)し、データ分析と、30年度の各学会での報告のための準備を行った。全国の保育士養成施設における食物アレルギー教育の実態調査を実施(1月)した。以上の各種調査により、保育現場での食物アレルギー対応と職種間連携に関する意識などが明らかになり、到達度テスト内容の改変、テキスト作りの草案となる資料を得ることができた。

選定記念シンポジウム「食物アレルギーの子どもを守る大学へ～保育所における食物アレルギー対応の充実に向けて～」を開催(7月29日)した。本事業の取り組み紹介とアレルギー専門医による基調講演、保育所や企業における食物アレルギーの取り組み事例を報告し、意見交換を行った。

「食物アレルギー教育研究トレーニンググループ」が完成(9月)し、学内ネットワーク環境が整備(11月)された。同時に本事業専用インターネットサイト「はっぴーと」を開設した。トレーニンググループは「完成記念セミナー」にて一般に公開(11月22日)され、セミナーにおいては、給食における食物アレルギー対応についての講演、トレーニンググループでの対応食の調理デモンストレーションを地域交流ホールに同時中継し、その後試食会を行った。トレーニンググループにおいては食物アレルギー対応食の調理動画収録を開始(12月)した。また、生活文化学科食物栄養専攻2年生の「食物アレルギー演習」において、トレーニンググループの授業における本格的な活用が開始(12月)した。これらの環境が整備されたことで、より多くの食物アレルギーに関する情報を外部発信することが可能となった。

食物アレルギー対応クリスマスパーティー「みんないっしょのクリスマス2017」を幼児教育学科、生活文化学科の協働型で開催(12月9日)した。また、「文教こどもフェスタ」においては、食物アレルギー児の保護者対象の栄養相談を実施(1月13日)した。これらイベントを両学科で共催したことで、学生・教職員双方に、それぞれの専門職への理解と意識向上が図られた。本事業の公開報告会を開催(2月23日)し、これまで行った事業および研究成果の報告、保育所における給食への取り組み事例を報告し、意見交換を行った。現時点における食物アレルギー教育の効果測定として「到達度テスト」を全学科の卒業学年に実施(2月)した。これは来年度以降も継続し、経時的な比較を行うことで教育内容に反映させることが可能となる。アレルギー児と保護者のためのイベント(3月11日)にて、保護者対象のアンケート調査を実施し、情報収集ニーズなどを分析した。これにより今後の事業専用インターネットサイトのコンテンツの展開案が明確となった。

【大学ブランディング】事業のコンセプトを伝える目的の冊子(大型絵本)「CoToCoTo」を発行(7月)し、各方面に配布した。また、高校生を対象とした別冊「CoToCoTo春号」(6月)および「CoToCoTo秋号」(10月)を発行し、本事業の取り組みを高校生に向けて紹介した。本学の認知度および、食物アレルギーに対する意識を調査するアンケートを愛知・岐阜・三重各県の高校生対象に実施(4月)した。また、同様のアンケートを愛知県内の女子高校生対象に実施(7月)した。これらの調査により、今後の本学のブランド力向上への方向性を決める資料を得ることができた。高校生に向けた進学情報提供会社のイベントにて、本事業の研究内容を紹介するブースで食物アレルギーに関する模擬授業を行った(3月)。

④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果

(自己点検・評価)

【研究・教育】28年度の事業計画のうち、完了していなかったものを含め、29年度は事業計画書に則り、計画していた調査研究などがほぼ実行できた。各種調査によって得られたデータは順次解析し、各学会で報告する準備を進めている。「食物アレルギー教育研究トレーニンググループ」が完成したことにより、学内での授業利用が開始され、生涯教育を含めた学外の研修を受け入れる体制が整った。また、本事業専用インターネットサイトの運用が開始したことにより、本学の取り組みを広く一般に公開できるようになり、トレーニンググループにて収録した食物アレルギー対応食の調理動画を配信する準備が整った。

【大学ブランディング】高校生対象のアンケート結果から、本学の認知度がまだ低い一方、食物アレルギーへの関心は高い傾向がみられた。このことから、今後のブランディング事業の展開が本学のブランド力の強化に繋がることが示唆された。また、本事業を高校生に紹介する広報誌を発行したことで、本学が「食物アレルギーの子どもを守る」大学であることが広く認知されることが期待される。

◇課題

各方面への実態調査は完了したが、データ量が膨大であるため、分析と解析は現在進行中である。今後速やかにこれらを進め、各種学会にて報告するとともに、教育内容へのフィードバックも加速させる必要がある。また、トレーニンググループにおける動画収録数を増やし、専用インターネットサイトのコンテンツ充実が30年度の課題となっている。

(外部評価)

本事業の外部評価委員による29年度の取り組みについての評価は以下の通りである。

- ・事業全体が順調に進んでいることが報告会における報告内容からよくわかった
- ・各種実態調査の結果から、教育現場や保育現場の課題が明確になることを期待する
- ・トレーニンググループは情報発信していく上でとても有効な施設。ぜひ実践的な情報が保育所に届くことを期待する
- ・広報誌「CoToCoTo」は、事業のコンセプトだけでなく、社会への問題提起としての資料として価値があると感じる
- ・事業専用インターネットサイトは、今後の内容のより一層の充実を期待する

⑤29年度の補助金の使用状況

【平成29年度私立大学等経常経費補助(特別補助)】

上記支援のもと、以下の事業に関連した経費を適切に執行した。

- ・「食物アレルギー教育研究トレーニンググループ」、「学内ネットワーク環境」の設置と整備
- ・事業専用インターネットサイトの開設と運用
- ・「卒業生アンケート」、「保育所実態調査」、「保育士養成校実態調査」「高校生アンケート」の実施
- ・「選定記念シンポジウム」、「トレーニンググループ完成記念セミナー」、「公開報告会」の開催
- ・各種学会への参加費用
- ・大学ブランディングに関わる各出版物の発行および配布